

## 町内会への支援と 平成27年度予算

みねまわり のりまさ  
峯廻 紀昌

民主党・市民連合



問町内会加入に関して、地域によって加入率が異なる原因はどこにありますか。また、今後町内会に対してどのような支援を行っていくのですか。

答賃貸共同住宅などの比率が高く、世帯人員が少ない地域では、学生や子育て中の若い世代が多く、町内会加入率が低い傾向にあります。平成26年度は、加入促進を支援したモデル地区で、子育て中の母親を対象としたサロンの開催などが行われました。今後、地域の実情に即した支援を全区に拡大していきます。

問上田市政12年間を締めくくる平成27年度当初予算で、特に力を入れたものは何ですか。

答まちづくり戦略ビジョンに掲げる、「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」の実現に向けて、間断なく進める必要のある事業を盛り込みました。

子どもの教育・保育にかかる質の向上と量の拡充を図ったほか、市民交流複合施設の建設など都心と拠点のまちづくりの推進や、札幌コンテンツ特区、MICE推進など札幌の経済を活性化し、まちの魅力を高める取り組みも計上しました。

## 冬季オリンピック・パラリンピックの招致とまちづくり

みうら えいぞう  
三浦 英三

公明党



問競技施設や選手村など市内で確保すべき関連施設の建設場所について、可能な限り札幌ドーム周辺に配置し、コンパクトな大会にしていくべきではありませんか。

答関連施設は利便性への配慮が求められる一方、後利用も見据えた整備が必要です。競技施設などの具体的な配置は、平成27年度に策定する開催概要計画に盛り込み、後利用の整備については、その計画の策定に合わせて検討します。

問施設の後利用も含む具体的な開催計画を策定する際には、プロスポーツ事業者と連携した民間活力の積極的な導入による地域活性化を図るべきであり、そのために清田方面までの大胆なまちづくり構想を進めるべきではありませんか。

答プロスポーツの持つ集客力を生かすことも重要な観点です。招致は札幌の新たなまちづくりの「起点」と捉えており、さまざまな分野の意見を取り入れ、将来のまちづくりについて検討します。

# 市議会の動き

2月12日から3月10日まで開かれた第1回定例会の中から、2月16日、17日、18日の代表質問の主な内容、最終日までに可決された議案などについてお知らせします。

## 都心のまちづくり

むらまつ まさみ  
村松 正海

自民党・市民会議



問札幌経済の活性化をけん引する観点から、市役所本庁舎の移転も視野に入れた大通西1丁目および2丁目の土地利用について、果敢に検討を進めるべきと考えますが、いかがですか。

答この街区は、都心の新たなまちづくりを先導していく必要があります。まちづくりの取り組みを連鎖させながら、大通交流拠点と一体的な都市開発により、地域資源の魅力を高め、創造的な市民活動や集客交流などの中心となる交流拠点を形成していく考えです。経済の活性化や都心まちづくりの視点から、本庁舎の在り方など、考えられるさまざまな可能性を探り、最も効果的で、潜在力を最大限発揮できる土地利用を目指すべきと考えます。

## 北区の公共財の老朽化

ばん よしたか  
伴 良隆

自民党・市民会議



問例えば、緑道の屯田みずほ通りは老朽化で不便が生じています。こうした道路や緑道などの公共財の老朽化について、今後は住民の総意を尊重し、計画的な整備保全が必要ですが、どのように取り組めますか。

答道路などの公共財は、その機能を将来にわたり維持していくため、中長期的な視点に立って、計画的・効率的な維持管理を行うこととしており、地域の要望など、ニーズを十分考慮して取り組んでいきます。